Ⅲ. 分担研究報告 1

厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
令和 5～7 年度　分担研究総合報告書

健診及び結果説明、形態学的評価

研究分担者　　齋藤　貴徳　　関西医科大学整形外科学講座　教授

研究要旨
令和 5～7 年度の健診について報告する。令和 5 年 5 名、令和 6 年 6 名、令和 7 年 6 名、3 年間で計 17 名（男性 8 名、女性 9 名）の健診を実施した。

研究結果

１．上部消化管内視鏡検査を 14 名に実施した。検査に伴う合併症は認めなかった。胃がんをはじめとする悪性腫瘍は認めなかった。胃ポリープ、びらん性胃炎、食道裂肛ヘルニア、食道胃逆流が高頻度に認められた。

２．頭部・体幹部 CT を 15 名で実施した。5 名に耳介形成不全、耳小骨低形成、蝸牛・三半規管低形成、内耳低形成、中耳炎、などの外耳・内耳異常を認めた。1 名に子宮筋腫が確認され産婦人科受診を勧めた。1 名に肺の小結節および肝腫瘤（血管腫疑い）が見られ、呼吸器科、消化器科での精査を推奨した。1 名に両側鼠径ヘルニアを認め、外科受診を勧めた。1 名に脂肪肝および婦人科で経過観察中の膣腫瘍を認めた。1 名に甲状腺腫瘍が確認され精査を推奨した。1 名に冠動脈石灰化を認めた。

３．頚椎・胸椎 MRI を 15 名に施行した。1 名は MRI で頚椎融合椎を認めた。1 名は MRI で C6/7 左側に軽度椎間板の膨隆、L3/4 で硬膜管圧迫を認めた。1 名は MRI で軽度脊柱管狭窄、Th11/12 後縦靭帯肥厚を認めた。1 名は頚椎後縦靭帯骨化病変、腰椎ヘルニアを認め、整形外科受診を勧めた。1 名に頚部脊柱管内軽度狭窄、腰椎椎間板突出による神経根圧迫所見を認めた。1 名に頚椎・腰椎の軽度脊柱管狭窄を認めた。1 名に脊椎分離すべり症を認めた。いずれも重度の神経症状等は伴っていなかった。

４．腹部超音波検査では 17 名中 13 名に脂肪肝を認めた。その他、腎のう胞、肝のう胞、胆のうポリープ、肝内結石、軽度脾腫を認めた。

５．骨密度検査は 14 名に施行し、女性 2 名で大腿骨頸部 YAM 値が 77%および 76%と標準より低値であった。

６．生活習慣病関連の検査では、10 名で BMI が 23%以上、うち 6 名で BMI が 25%以上であった。男性 4 名、女性 6 名で腹囲が基準値以上であった。中性脂肪は 5 名で 150 mg/dL 以上、LDL コレステロールは 2 名で 140 mg/dL 以上であった。HDL コレステロールは 1 名が 40 mg/dL 未満であった。1 名が糖尿病で治療を受けていたが管理目標に達していなかった。4 名が空腹時血糖 110 以上であった。。

７．整形外科的診察では、1 名で先天性の両上肢の変形、欠損、伸展障害があり、さらに頚椎症性神経根症、右変形性股関節症、腰部脊柱管狭窄症、胸椎黄色靭帯骨化を認め経過観察が必要であった。1 名で頚椎融合椎と軽度側弯を認めたが臨床症状はなかった。1 名に頚椎由来の軽度の四肢感覚障害を認めた。1 名に膝関節、腰部の変形性関節症を認めた。1 名に手指形成異常を認めたが、関節症状は乏しく大きな問題はなかった。1 名に右人工股関節置換術の既往があり、左股関節痛の悪化が見られたた

め、整形外科での精査を勧めた。さらに 1 名に頚椎疾患の疑い、1 名に坐骨神経症状を認め、精査および整形外科受診を勧めた。

考察

サリドマイド患者では脂肪肝の頻度が高いと考えられた。脊椎の加齢性変化を含む整形外科的所見が見られる症例が多い。四肢の慢性的しびれや疼痛などの症状の原因となりうるため、経過観察およびリハビリ等による保存的治療が必要であると考えられた。